

魚類の保全対策に係る検討（案）

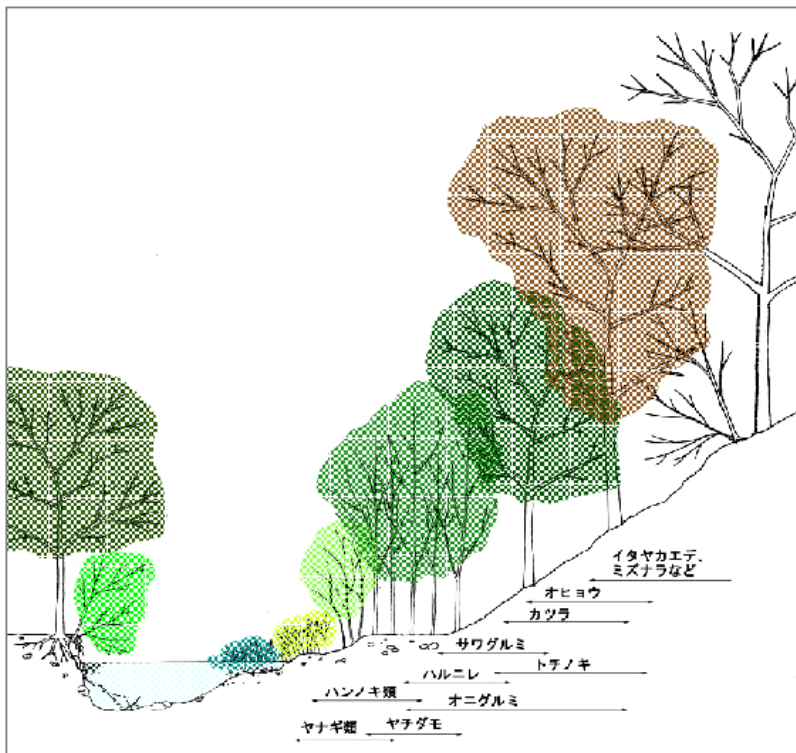
(1) 河畔林や溪畔林の整備

- ・河畔林・溪畔林の整備により、小さな魚や水生昆虫等も含めた豊かな河川の生態系の再生に取り組んでいく。
- ・河畔林があることで、河畔周辺さまざまな生き物の食物連鎖によって栄養が循環し、餌となる有機物の供給のほか、日射遮断、隠れ場形成など魚類等の生息場の保全、水質浄化といった多くの機能が形成される。
- ・樹種によって冠水に耐える強さに違いがあるので、河畔では冠水状況を考慮した樹種構成にて河畔林の整備を行う。

以下に、冠水の可能性のある部分について、河畔林育成に適当と考えられる標準的な樹種を掲載する。

- * 融雪時期に冠水する場所：ヤナギ類（オノエヤナギ、エゾキヌヤナギ）等
- * 夏期も根が水に浸かる水辺：ヤナギ類（イヌコリヤナギ、タチヤナギ）等
- ・河畔林の保全・育成については、現存する河畔の森林を半栽培などの方法で行っていくことが望ましいと考えられる。

【参考】標準的な河畔林の断面図の例



(出典：
「河畔林のはたらきとつくり方」
北海道立林業試験場)

※半栽培とは

基本的に、植物本来の特徴を活かしながら、自然の生育を人が手助けする方法で、維持管理としては、巡回の際に必要な応じて、育成管理の対象とする植物の周囲の刈払い・枝おろし・下草刈り等、増殖方法としては地表の確保・株分けなどがあげられる。

(2) 魚類の生息環境の保全

- ・サクラマス（ヤマベ）等の魚類にとって良好な生息環境の保全方策を実行していくために、実証試験等を交えて現地の状況を把握し、有効な手段の確立を目指すこととする。

【参考】 宿主別川における実証試験の実施

宿主別川の河道に簡易な工作物を設置し、その耐久性や河道の変化、幼魚の分布などを考慮しながら、幼魚の生息密度の向上を目的に、設置範囲の拡大を行っていくことを予定している。

工作物設置に関する実証試験の実施状況



(3) 河川伝統工法の検討

ダム貯水池の流速の緩やかなところでは、地域の歴史と文化に根ざした河川伝統工法により護岸と緑化を行うことが考えられる。

【参考】二風谷ダムにおける試験的な実施例

○木流し工

ヤナギの幹木（幹および枝）を使って水の流れを緩やかにし、河岸崩壊が拡大するのを防ぎ、土砂の堆積を促す。

<設置後>



○木流し水制工

間伐材（カラマツ）及び柳枝を使い、水の流れを緩やかにするとともに流れの向きを変え土砂の堆積を促して河岸を保護する。

<設置後>



○並杭工

ヤナギの間伐材を使い、河岸の斜面保護と浸食対策を行い、水の勢いを緩やかにする目的もある。

<設置後>



○連柴細工

ヤナギの間伐材を使い、河岸の斜面保護と浸食対策を行い、水の勢いを緩やかにする目的もある。

<設置後>



○埋枝工

ヤナギを挿穂することで裸地を緑化保護する。

<設置後>



○サンキ（作木）工法

かつて沙流川で行われていた流送で流木による河岸の浸食を防ぐために利用された護岸工で、基本的な構造は三本の丸太を三角錐のように組み合わせ、中央の棚に石積み重しとし、これを川の中に沈めることで、流木から護岸を保護し、同時に橋脚を守るなどの目的で使用されていた。

<サンキ工法の模型>



(出典：『ペアライン』第5号 室蘭開発建設部)

(4) 伝統的な漁法等の伝承

- ・平取町内で行われてきたサケ等の伝統的な漁法について、体験者から話を聞いた
り文献を調べることで技術の記録を行う。
- ・さらに、漁具作成を体験する勉強会や体験者を招いて、実地で手法を学べる体験
講座を実施し、伝統的な漁法の実践の場を設け、継承を図ることとする。

<平取町における伝統的漁法の実践例> 2002年11月7日アベツ川



(写真提供：平取町)